



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):11月の報告

レジオネラ症の報告が3件ありました。いずれも感染経路等不明

で、詳細は調査中です。

その他、アメーバ赤痢 2件、腸管出血性大腸菌感染症・劇症型溶血性レンサ球菌感染症およびバンコマイシン耐性腸球菌感染症各1件の報告がありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 10 月 24 日～平成 23 年 11 月 20 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>	→	今のところ患者数は少ないですが、今後増加していくと予想されます。
<u>RSウイルス感染症</u>	→	今年は例年に比べて立ち上がりは早めのため、例年以上の流行が懸念されていましたが、10月以降はほぼ平年並みの患者数となっています。
<u>感染性胃腸炎</u>	↗	11月に入ってから、徐々に患者数が増加しています。市内でも集団感染が疑われる事例が発生しており、今後の動向に注意が必要です。
<u>水痘</u>	↗	こちらも、秋口から患者数が増加傾向となっていますが、これまでのところは平年並みの報告数です。

大流行 流行 やや流行 散発 ×市内発生なし
 ↗ 増加傾向 → 横ばい ↘ 減少傾向

2. 今気をつけたい感染症

感染性胃腸炎: 主に冬に流行する感染症で、原因としてはノロウイルスが有名です。ノロウイルスの場合は、ウイルスに汚染された水や食物を摂取してから 12～48 時間後に下痢や嘔吐、発熱といった症状が現れます。またノロウイルスには、消毒用アルコールが効きにくい(次亜塩素酸でないと効果がない) 熱に比較的弱い(消毒のためには85 以上、1分以上の加熱が必要)、といった特徴があります。

・パンフレット ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意ください!

小さいお子様ではロタウイルスによる胃腸炎にも注意が必要ですが、こちらは今年に入ってからワクチン(ロタリックス®)が日本で認可されました。このワクチンは生後6週に最初の接種を行いますので、接種を希望する場合は早めに主治医に相談しましょう。

「感染症に気をつけよう 12月号」は、11月24日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

